

殿にもお節家をお憎しとあつて宿下げ仰付けられしに、たきうこのわらす多仲殿より何彼言上の仔細
 あつて餘儀なく此る次第に致されしやに漏聞き候へば、あやうき卿様より一言の御執成しあらば、おの殿に
 も喜でお聞届あるべしと例の依辨を以て程好く言出しが、おの結城の花里音次の兩人に深き巧
 のあるぞと、つるし露知す花里の平生己が心悪く思ふ多仲の言上に依て宿下げされしと聞て其事
 の仔細の兎もあれ吾が力を以て花里と元の如くに爲し、おの殿の櫓と取り多仲に鼻あかせ且、おの藩
 士に吾撤威の程と知せんものと、速にうの儀を承諾ひやがて出仕の序をして殿に云々と言
 上せしに、おの殿に、おの隙て其心ありて好便もがなど思居りし折柄なれば早速に聞すみ給ひ即日花
 里の宿下げと許さる、おの花里の隙て音次と示合せ大望を成就するに、おの結城を味方に引入る
 、こそ第一の策なれと思案して此の結城に執成しを頼みしなり、おの花里の再度御殿へ歸りし後
 結城が奥へ出仕の折と幸ひ私に此程の禮を述べ併て己が望の云々と諷めかしけるが、おの結城も
 元來奸智に長け隙て一藩の櫓を吾手に握らん志あれば、おの速に同意の答へを爲し此事と成
 すに、おの野村多仲が第一の邪魔者あれば先此者を追退るが肝要ありと密にうの機會を窺ひ

ける

○第七回

結城の花里と心を合せ一藩の櫓を専らにせんと種々奸計を廻らせしが、おの先第一の邪魔物たる
 江戶家老野村多仲なれば之を退るが肝要なり夫に、おの幸ひ留主居高須好の多仲の甥に當
 り頃來吉原の娼妓金瓶樓の吾婆に心と奪われ金銭を瓦礫の如く放擲てば、おの渠を敬唆して尙も
 遊蕩と恣にさせ渠に失錯を造へて其罪を多仲に及ぼし之と退かせるこそ捷徑ならめと
 其後の己れ愈々厭妓お玉に眷戀せる体おもてなし好と俱に吉原に入込けるが、おの結城かか
 る奸計あらんと、おの露知らねば益々浮れて、おの藩の金と多く遺果し既に事の破れに臨しかば始
 てうち駭き、おの官方盡力して座頭金をさへ多分借入一時の窮迫を防ぎしが、おの其返済に事を欠き遂
 に座頭某より時の町奉行某へ貸金返済の儀を訴訟されぬ、おの好の今更途方を失ひ此事はよく
 表沙汰になりなば如何ある罪科に處せられんも圖られやかく成ぬ間に身と脱る、こそ上分
 別なれと或夜番邸を脱出金瓶樓に登て、おの吾妻お事云々と身の困難と語りしに、おの平素衆集強き吾